

オーストリア

Republic of Austria

	2015年	2016年	2017年
①人口：882万人（2018年）			
②面積：8万3,879km ² （2017年）			
③1人あたりGDP：4万7,290ユーロ （2017年）			
④実質GDP成長率（%）	1.1	1.5	3.0
⑤消費者物価上昇率（%）	0.9	0.9	2.1
⑥失業率（%）	5.7	6.0	5.5
⑦貿易収支（100万ユーロ）	△1,991	△4,542	△5,697
⑧経常収支（100万ユーロ）	6,622	7,511	6,960
⑨外貨準備高（グロス） （100万ユーロ）	12,698	12,940	9,894
⑩対外債務残高（グロス） （100万ユーロ）	291,400	295,200	289,500
⑪為替レート（1米ドルにつき、 ユーロ、期中平均）	0.9017	0.9040	0.8874

〔注〕⑦：国際収支ベース（財のみ）
〔出所〕①②④～⑦：オーストリア統計局、③⑨⑩：IMF、⑧：デジタル化・経済立地省、⑩：オーストリア国立銀行

2017年のオーストリアの実質GDP成長率は3.0%と前年の1.5%を大きく上回った。好調な内需と輸出が経済成長を牽引した。貿易は輸出、輸入ともに8%以上増加したが、輸入の伸びが輸出の伸びを上回り、貿易赤字が拡大した。直接投資は対内、対外ともに前年の引き揚げ超過から一転し、増加した。対日貿易は、最大品目の機械・輸送機器を中心に、輸出が4.0%増、輸入が8.7%増となった。

■ 内需と輸出の増加で経済成長が加速

2017年のオーストリアの実質GDP成長率は3.0%と前年の1.5%を上回る伸びを示した。民間最終消費支出は前年と同様の前年比1.5%増となった。乗用車への需要は旺盛であったものの、家具、電気・電子機器などを含む耐久消費財全体の伸びは0.8%増にとどまった。政府最終消費支出は1.2%増と前年の成長率を下回ったが、国内総固定資本形成は4.9%増と引き続き好調だった。要因としては、好景気で設備稼働率が高く、企業の設備投資が8.2%増と大幅に拡大したことに加え、建設投資も2.6%増となったことが挙げられる。

2017年の世界経済が好調であったことは、機械と輸送機器を中心に強みを持つオーストリア企業の輸出を後押しした。財貨の輸出が伸びたことなどにより、財貨・サービスの輸出は5.6%増と同輸入の4.8%増を上回る伸びを示した。

表1 オーストリアの需要項目別実質GDP成長率

	2016年	2017年				2018年
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
実質GDP成長率	1.5	3.0	0.9	0.8	0.9	0.9
民間最終消費支出	1.5	1.5	0.3	0.4	0.4	0.4
政府最終消費支出	2.0	1.2	0.2	0.2	0.2	0.3
国内総固定資本形成	3.8	4.9	1.4	1.5	1.2	1.0
財貨・サービスの輸出	2.4	5.6	2.1	1.5	1.1	1.6
財貨・サービスの輸入	3.6	4.8	1.6	1.3	0.6	1.1

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比。

〔出所〕オーストリア国立銀行

消費者物価上昇率は、前年の0.9%から2.1%に上昇した。燃料価格が前年より7.1%増、航空運賃が13.0%増、家賃が4.2%増、ホテル・レストランが2.9%増と、それぞれ上昇した。好景気により雇用は拡大し、失業率は前年の6.0%から5.5%へと改善した。

2018年第1四半期も好況が続く、経済成長率は前年同期比0.8%増で、前年第1四半期とほぼ同水準となった。オーストリア経済研究所（WIFO）によると、主な原動力は民間最終消費支出の伸びだった。企業による設備投資も大幅に増加した。輸出も経済成長に貢献したが、輸出の伸びは前年同期と比べ縮小した。WIFOは同年6月、2018年通年のGDP成長率を3.2%とする予測を発表している。

■ 輸出・輸入ともに増加し、貿易赤字が拡大

2017年の貿易は、輸出が前年比8.2%増の1,419億1,800万ユーロ、輸入が2011年以降で最大の伸びとなる8.8%増の1,476億1,500万ユーロとなった。貿易赤字は、前年の45億4,200万ユーロから56億9,700万ユーロに拡大した。

輸出を品目別にみると、最大品目である機械・輸送機器（構成比39.9%）は前年比7.7%増となった。そのうち、主力の道路輸送機器（9.7%）は13.3%増であり、電気・電子機器（7.5%）、一般機械（6.4%）、産業用機械（5.7%）なども高い伸び率を示した。その他の主力輸出品目をみると、原料別製品（21.8%）が9.8%増、化学品（14.0%）が11.9%増となった。

表2 オーストリアの品目別輸出入

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2016年		2017年		2016年		2017年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械・輸送機器	52,592	56,632	39.9	7.7	48,444	52,664	35.7	8.7
道路輸送機器	12,202	13,829	9.7	13.3	15,357	16,965	11.5	10.5
自動車部品	9,834	10,630	7.5	8.1	8,779	9,562	6.5	8.9
乗用車	4,265	5,287	3.7	24.0	8,226	8,884	6.0	8.0
電気・電子機器	9,834	10,630	7.5	8.1	8,779	9,562	6.5	8.9
一般機械	8,472	9,021	6.4	6.5	7,812	8,097	5.5	3.6
産業用機械	7,330	8,152	5.7	11.2	3,913	4,472	3.0	14.3
原動機	7,143	7,057	5.0	△1.2	3,814	3,937	2.7	3.2
通信機器	2,521	2,548	1.8	1.1	3,597	3,537	2.4	△1.7
原料別製品	28,156	30,905	21.8	9.8	21,196	23,296	15.8	9.9
鉄製品	6,449	7,720	5.4	19.7	3,659	4,335	2.9	18.5
金属製品	7,056	7,626	5.4	8.1	5,964	6,229	4.2	4.4
化学品	17,731	19,837	14.0	11.9	18,652	20,275	13.7	8.7
医薬品	8,401	9,934	7.0	18.3	8,344	8,985	6.1	7.7
雑製品	15,331	15,843	11.2	3.3	21,073	21,931	14.9	4.1
食品・動物・飲料・たばこ	9,874	10,548	7.4	6.8	10,509	11,019	7.5	4.9
原料	4,133	4,481	3.2	8.4	5,331	5,899	4.0	10.7
コルク・木材	1,515	1,584	1.1	4.6	1,450	1,425	1.0	△1.7
燃料・エネルギー	2,212	2,785	2.0	25.9	8,924	10,699	7.2	19.9
原油・石油製品	1,113	1,457	1.0	30.9	5,199	6,168	4.2	18.6
天然ガス	312	363	0.3	16.3	2,375	2,639	1.8	11.1
総額 (その他含む)	131,125	141,918	100.0	8.2	135,667	147,615	100.0	8.8

[注] EU域外貿易は通関ベース、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。
[出所] オーストリア統計局

表3 オーストリアの主要国・地域別輸出入

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2016年		2017年		2016年		2017年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU	91,169	99,038	69.8	8.6	96,917	104,604	70.9	7.9
ユーロ圏	67,754	74,041	52.2	9.3	77,386	83,332	56.5	7.7
ドイツ	40,055	42,771	30.1	6.8	50,414	54,296	36.8	7.7
イタリア	8,373	9,098	6.4	8.7	8,394	9,077	6.1	8.1
フランス	5,329	7,050	5.0	32.3	3,651	3,971	2.7	8.8
スロバキア	2,811	2,938	2.1	4.5	2,964	3,014	2.0	1.7
非ユーロ圏	23,375	24,939	17.6	6.7	19,532	21,272	14.4	8.9
チェコ	4,790	5,264	3.7	9.9	5,866	6,354	4.3	8.3
ハンガリー	4,381	4,815	3.4	9.9	3,521	3,975	2.7	12.9
ポーランド	3,922	4,355	3.1	11.0	3,335	3,808	2.6	14.2
英国	4,103	3,907	2.8	△4.8	2,697	2,470	1.7	△8.4
アジア大洋州	9,666	10,861	7.7	12.4	14,781	15,905	10.8	7.6
中国	3,313	3,699	2.6	11.6	7,972	8,498	5.8	6.6
ASEAN	1,345	1,532	1.1	14.0	2,366	2,559	1.7	8.2
日本	1,332	1,385	1.0	4.0	1,973	2,144	1.5	8.7
韓国	851	1,290	0.9	51.6	755	858	0.6	13.6
インド	779	755	0.5	△3.2	774	826	0.6	6.7
米国	8,727	9,661	6.8	10.7	5,002	5,811	3.9	16.2
スイス	7,165	7,006	4.9	△2.2	7,103	7,619	5.2	7.3
ロシア	1,882	2,185	1.5	16.1	2,463	2,761	1.9	12.1
アフリカ	1,596	1,639	1.2	2.7	1,359	1,548	1.0	14.0
ブラジル	574	726	0.5	26.4	295	349	0.2	18.3
合計 (その他含む)	131,125	141,918	100.0	8.2	135,667	147,615	100.0	8.8

[注] ① EU域外貿易は通関ベース、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

② アジア大洋州はASEAN+6 (日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、インド) に香港および台湾を加えた合計値。

[出所] オーストリア統計局

輸出を国・地域別で見ると、全体の7割近くを占めるEU向け (構成比69.8%) が前年比8.6%増と堅調だった。同輸出のうち、ユーロ圏向け (52.2%) は9.3%増、EUの非ユーロ圏向け (17.6%) は6.7%増となった。ユーロ圏では、最大の貿易相手国であるドイツ向け (30.1%) の輸出が6.8%増と好調だった。同輸出を品目別にみると、原料別製品が9.1%増、機械・輸送機器が7.1%増、化学品が6.0%増となった。また、イタリア向け (6.4%) が8.7%増となったほか、フランス向け (5.0%) は、3.8倍となった医薬品が牽引して32.3%増と大きく伸びた。非ユーロ圏向けでは、ポーランド向け (3.1%) が11.0%増、チェコ向け (3.7%) およびハンガリー向け (3.4%) がいずれも9.9%増と高い増加率を示した。一方、英国向け (2.8%) は4.8%減となった。

EU域外向け (30.2%) の輸出は6.9%増の428億8,000万ユーロだった。中でも、EU域外で最大の輸出先である米国向け (6.8%) は、10.7%増加した。鉄鋼が65.0%増、道路輸送機器が47.3%増、通信機器が37.4%増、飲料品が20.7%増となり牽引した。アジア大洋州向け (7.7%) では、道路輸送機器が急増した韓国向け (0.9%) が51.6%増となったほか、同地域最大の貿易相手国である中国向け (2.6%) は11.6%増、日本向け (1.0%) は4.0%増となった。

輸入を品目別で見ると、最大の品目である機械・輸送機器 (構成比35.7%) が前年比8.7%増となった。企業の旺盛な設備投資意欲を背景に、道路輸送機器 (11.5%) が10.5%増となったほか、産業用機械 (3.0%) が14.3%増、電気・電子機器 (6.5%) が8.9%増となった。燃料・エネルギー (7.2%) は石油価格の上昇により、19.9%増と大きな伸びを示した。

輸入を国・地域別で見ると、EU (構成比70.9%) からの輸入は7.9%増となった。最大の輸入元のドイツ (36.8%) からは、道路輸送機器、電機・電子機器の伸びにより、7.7%増だった。第2位の輸入元であるイタリア (6.1%) からは、石油、鉄鋼、道路輸送機器を中心に8.1%増となった。中・東欧では、ポーランド (2.6%) からが14.2%増、

ハンガリー（2.7%）が12.9%増と大きな伸びを示した。アジア大洋州（10.8%）からの輸入も7.6%増と好調であった。そのうち、中国（5.8%）からは6.6%増で、同輸入の半分弱を占める機械・輸送機器が7.7%増となったことが主な要因である。米国（3.9%）からは16.2%増で、医薬品（10.3%）と道路輸送機器（16.2%）が大幅に増加した。

■ 対内・対外直接投資がともに回復

オーストリア国立銀行によると、対内投資直接（国際収支ベース、ネット、フロー）が85億4,500万ユーロ、対外直接投資が96億6,600万ユーロで、ともに前年の引き揚げ超過から回復した。

2017年の対内直接投資を地域別にみると、EUからは52億1,000万ユーロとなり、全体の61.0%を占めた。国別では、ロシア、オランダ、ドイツからの投資が大きかった一方、米国からは56億2,100万ユーロの引き揚げ超過となった。

オーストリア経済振興会社（ABA）は、2017年に前年比7.8%増となる過去最多の344社の外国企業を誘致した。投資総額は2.6%増の7億2,385万ユーロ、雇用創出数は1.9%増の2,673人となった。誘致企業の約3分の1はドイツからで118社、イタリア、スイスとスロベニアからはそれぞれ26社ずつであった。2017年はスロベニアを始めとして、中・東欧およびロシアからの投資が目立ち、ハ

ンガリー（18社）、スロバキア（14社）、ロシア（11社）などから合計99社がオーストリアに進出した。

各国の主な動きをみると、ドイツの医薬品大手、ベーリンガーインゲルハイムは2017年10月、ウィーンにバイ

表4 オーストリアの国・地域別対内・対外直接投資
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

（単位：100万ユーロ）

	対内直接投資		対外直接投資	
	2016年	2017年	2016年	2017年
	金額	金額	金額	金額
EU	△10,673	5,210	3,128	6,413
ユーロ圏	△10,468	5,652	7,329	4,879
ドイツ	319	1,496	978	209
イタリア	△6,839	164	724	△62
フランス	84	501	21	316
オランダ	△4,146	2,307	5,161	4,545
非ユーロ圏	△204	△443	△4,201	1,534
ハンガリー	20	△32	△754	△138
英国	△193	△283	1,018	△566
ロシア	853	6,743	△936	1,733
スイス	202	937	488	297
ブラジル	19	919	51	118
アフリカ	118	566	37	△70
シンガポール	129	△19	96	1,307
日本	56	226	38	△14
中国	616	40	803	448
インド	2	10	87	49
トルコ	8	△8	△2,731	△1,277
米国	568	△5,621	△655	205
合計（その他含む）	△8,137	8,545	△3,182	9,666

〔注〕2017年は暫定値。

〔出所〕オーストリア国立銀行

表5 オーストリアの主な対内直接投資案件（2017年）

＜M&A以外＞

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
医薬品	ベーリンガーインゲルハイム	ドイツ	2017年10月	7億ユーロ	医薬品大手のベーリンガーインゲルハイムは、ウィーンにバイオ医薬品工場を建設することを発表。
食品	ベル・フード	スイス	2017年5月	3,000万ユーロ	食料品大手のベル・フードは、オーバーエスタライヒ州にインスタント食品の工場を建設すると発表。稼働は2018年秋の予定。
自動車	アウディ	ドイツ	2017年6月	非公表	アウディは、リンツ大学と協力して自動運転の研究所を設立する計画を発表。
航空	イーージェット	英国	2018年4月	非公表	英国の格安航空会社イーージェットは、欧州本部をウィーンに移転。
金融	中国工商銀行	中国	2017年11月	非公表	中国最大の銀行である中国工商銀行はウィーンに支店を開設したことを発表。中期的には南・東欧本部とする計画。
鉄道	長城汽車	中国	2018年1月	非公表	自動車メーカーの長城汽車は、ウィーンに電気自動車、ハイブリッド車の研究所を開設したことを発表。

＜M&A＞

被買収企業（事業）		買収企業		時期	投資額	概要
業種	企業名	企業名	国籍			
ハイテク	マイシュガー	ロッシュ	スイス	2017年6月	非公表	医薬品大手ロッシュは、糖尿病患者用のアプリを開発したスタートアップ、マイシュガーを買収する契約を締結。
オートメーション技術	B&R	ABB	スイス	2017年7月	非公表	機械大手ABBは、オートメーション技術のB&Rを買収することを発表。
広告	メディア・アット	電通イージス・ネットワーク	日本	2017年7月	非公表	電通イージス・ネットワークは、広告代理店のメディア・アットを買収したことを発表。
機械	ハース	ビューラー	スイス	2017年9月	非公表	食料品機械大手のビューラーは、菓子製造機械メーカーのハースを買収契約を締結したことを発表。
飛行機	ダイヤモンド・エアクラフト	萬豊航空	中国	2017年12月	非公表	萬豊航空は、小型飛行機メーカーのダイヤモンド・エアクラフトを買収したことを発表。
オートメーション技術	M&Rオートメーション	ピア・オートメーション	中国	2018年1月	非公表	自動化ソリューションのピア・オートメーションは、同業のM&Rオートメーションを買収したことを発表。

〔出所〕各社発表および報道などから作成

表6 オーストリアの主な対外直接投資案件（2017年5月～2018年2月）

<M&A以外>

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
エネルギー	OMV	ロシア	2017年12月	17億1,900万ユーロ	西シベリアのユシュノ・ルスコイエ・ガス田株式の24.99%を取得したことを発表。
食品	アグラナーナ・フルーツ	中国	2017年7月	非公表	江蘇省の常州に果物加工工場を建設することを発表。
運搬	ゲブリューダーワイス	中国	2017年	非公表	同社は4つの新しい拠点を建設し、現在、中国で16カ所の運搬拠点を運営。
二輪車	KTM	ドイツ	2017年7月	非公表	ドイツにR&Dセンターを開設したことを発表。
飛行機	ダイヤモンド・エアクラフト	中国	2017年8月	非公表	中国に小型航空機工場を開設したことを発表。
機械	マブラン	中国	2017年9月	非公表	常州の工業団地にアジア市場向けの機械工場を建設したことを発表。

<M&A>

買収企業		被買収企業（事業）		時期	投資額	概要
業種	企業名	企業名	国籍			
木材	エッガー	マシサ	アルゼンチン	2017年10月	1億5,500万ドル	木材のエッガーはマシサからアルゼンチンのコンコルディアにある合板工場を買収したことを発表。
アルミ	SAG	プロフメキシャ他	メキシコ	2017年5月	非公表	SAGは、メキシコのアルミ部品製造業3社を買収したことを発表。
パッケージング	アルブラ	ボックスモア・パッケージング	南アフリカ	2017年7月	非公表	パッケージング大手アルブラは、南アフリカ共和国の同業ボックスモア・パッケージングの買収契約を締結したことを発表。
ライフサイエンス	バイオクレイツ・ライフサイエンス	メタノミックス・ヘルス	ドイツ	2018年1月	非公表	バイオクレイツは、ドイツの同業メタノミックス・ヘルスを買収したことを発表。
精密機器	アントン・パール	クアンタクローム	米国	2018年2月	非公表	計測器メーカーのアントン・パールは、米国の同業クアンタクロームを買収したことを発表。

〔出所〕 各社発表および報道などから作成

オ医薬品工場を建設することを発表した。総投資額は7億ユーロに上り、500人規模の雇用を創出する見込み。スイスの食品大手、ベル・フードは2017年5月、オーバーエスタライヒ州に3,000万ユーロを投資してインスタント食品の工場を建設することを発表した。2018年秋の開設を予定している。

また、2017年には多数の中国企業がオーストリアに新規に進出し、現地メディアの注目を集めた。世界最大の銀行である中国工商銀行は2017年11月、ウィーンに支店を開設した。将来的には機能を発展させて中・東欧本部にする計画がある。さらに、自動車メーカーの長城汽車は2018年1月、ウィーン郊外に研究開発センターを建設し、電動機、電気・ハイブリッド自動車用のソフトウェアの開発を開始した。中期的には100人以上を雇用する。

M&A案件をみると、萬豊航空が2017年12月、小型飛行機メーカーのダイヤモンド・エアクラフトを買収した。自動化ソリューションのピア・オートメーションは2018年1月、同業のM&Rオートメーションを買収した。

対外直接投資を国・地域別にみると、EUへの投資は64億1,300万ユーロとなり、全体の66.3%を占めた。国別では、オランダ、ロシア、シンガポール向けが上位を占めた。一方、トルコ、英国向けは大幅な引き揚げ超過だった。

主な動きをみると、オーストリアのエネルギー大手OMVは2017年12月、ロシア西シベリアのユシュノ・ル

スコイエ・ガス田の株式24.99%を取得したことを発表した。投資額は17億1,900万ユーロにのぼる。

M&A案件をみると、木材業者のエッガーは2017年10月、アルゼンチンのマシサから合板工場を買収した。投資額は1億5,500万ドルと発表されている。

■対日貿易、輸出入ともに上昇

オーストリアにとって日本は、輸出で第19位、輸入で第15位、アジア大洋州で中国に続く第2の貿易相手国だ。2017年の輸出額は前年比4.0%増の13億8,500万ユーロ、輸入額は8.7%増の21億4,400万ユーロと、いずれも過去の最高水準となった。対日貿易赤字は7億5,900万ユーロに拡大した。

対日輸出を品目別にみると、全体の44.7%を占める機械・輸送機器が前年比16.9%増となった。そのうち、自動車・同部品（構成比19.8%）が12.3%増、産業用機械（6.5%）が75.8%増、通信機器（1.5%）が33.7%増と大幅な増加を示した。原料別製品（20.7%）は1.9%増となり、そのうち金属製品（9.3%）が3.5%増、木材製品（6.9%）が3.9%増となった。他方、食料品（4.2%）が4.2%減となったが、狂牛病の影響により2001年2月から禁止されていたオーストリア産牛肉の対日輸出が2017年9月に解禁となったことから、今後は輸出増が見込まれる。日本の食肉市場の再開拓のため、オーストリアの牛肉業者数社が2018年3月に開催された「FOODEX JAPAN 2018」

表7 オーストリアの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2016年	2017年			2016年	2017年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械・輸送機器	530	619	44.7	16.9	1,424	1,508	70.3	5.9
自動車・同部品	245	275	19.8	12.3	555	580	27.0	4.5
産業用機械	52	91	6.5	75.8	181	201	9.4	10.6
電気・電子機器	45	43	3.1	△5.0	287	317	14.8	10.6
事務用機械	14	15	1.1	5.9	137	123	5.7	△9.9
通信機器	16	21	1.5	33.7	62	63	2.9	1.9
原料別製品	282	287	20.7	1.9	137	150	7.0	9.0
金属製品	124	128	9.3	3.5	33	35	1.6	5.6
木材製品	92	95	6.9	3.9	1	1	0.0	16.1
その他工業製品	143	137	9.9	△3.8	190	209	9.7	9.8
計測機器	59	68	4.9	14.8	99	101	4.7	1.8
カメラ・光学機器	5	5	0.4	△4.4	37	48	2.2	30.0
雑工業製品	49	39	2.8	△21.0	51	56	2.6	10.8
化学品	125	139	10.1	11.1	199	259	12.1	29.8
医薬品	58	61	4.4	5.7	32	30	1.4	△4.7
有機化学製品	9	9	0.6	△5.0	66	105	4.9	57.9
原料	105	100	7.2	△4.4	7	7	0.3	△10.6
コルク・木材	91	87	6.3	△4.3	0	0	0.0	41.2
食料品	61	58	4.2	△4.2	4	4	0.2	△7.6
飲料品・たばこ	14	9	0.6	△34.2	1	1	0.1	25.7
合計(その他含む)	1,332	1,385	100.0	4.0	1,973	2,144	100.0	8.7

[出所] オーストリア統計局

に出展した。

日本からの輸入を品目別にみると、全体の70.3%を占める機械・輸送機器が前年比5.9%の増加となった。そのうち、自動車・部品（構成比27.0%）は4.5%増、電気・電子機器（14.8%）は10.6%増、産業用機械（9.4%）は

10.6%増となった。その他工業製品（9.7%）は9.8%増となったが、そのうち、カメラ・光学機器（2.2%）が30.0%増、雑工業製品（2.6%）が10.8%増と大きく伸びたことによる。化学品（12.1%）も29.8%増と大幅な増加を示した。

オーストリア国立銀行によると、日本からの対内直接投資は前年比4.0倍の2億2,600万ユーロで大幅に伸びた。新規投資としては、広告代理大手の電通イージス・ネットワークが2017年7月、オーストリアの同業メディア・アットを買収した。これにより、電通イージス・ネットワークは、オーストリア国内第2位の売上高の広告代理店へと躍進した。そのほか、電動工具のマキタは同年7月に、ウィーン国際空港近くのフィッシャメント市に新社屋を建設し、中・東欧本部をウィーン市内から移転した。

日本への対外直接投資は1,400万ユーロの引き揚げ超過となった。在京オーストリア大使館商務部によると、2018年6月時点で70～80社のオーストリア企業が日本に代表事務所や支店、子会社を設けているという。2017年に在日オーストリア企業の進出、撤退の大きな変化はなかった。